

1

先行事例紹介

① 視察を終えて

■ 視察目的

令和2年3月に供用開始した「帯広市総合体育館（よつ葉アリーナ十勝）」及び公認プールである「帯広の森市民プール（スインピア）」を視察し、諸室構成、動線計画、設備機器、ユニバーサルデザイン等の最新の設備を見学するとともに、キッズスペースを含め一般市民の利用方策や民間運営の状況などを学習するため実施。

■ 視察概要

視察日時：令和4年8月30日（火）8時30分～19時00分

視察先：①帯広市総合体育館（よつ葉アリーナ十勝）
②帯広の森市民プール（スインピア）

参加者：小樽市新総合体育館整備検討委員会委員、小樽市教育委員会職員、
(株)建設技術研究所職員（基本構想策定業務委託事業者）

① 視察を終えて

■ 帯広市総合体育館（よつ葉アリーナ十勝）

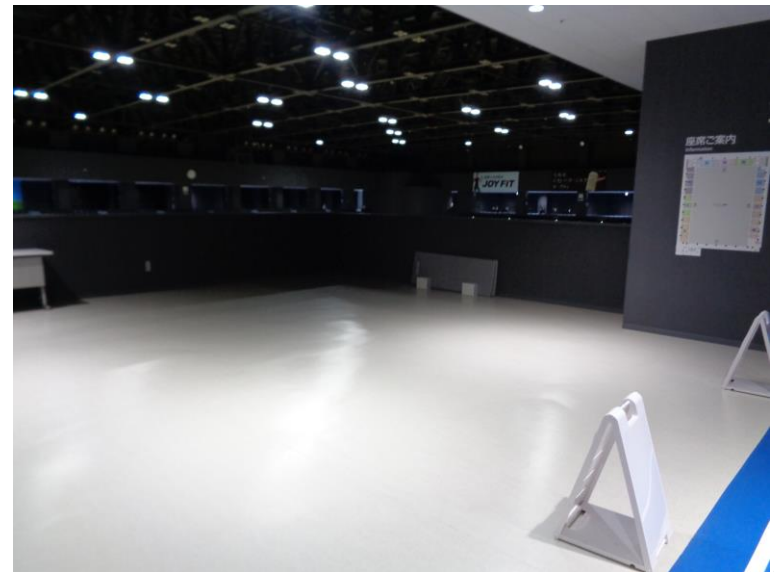
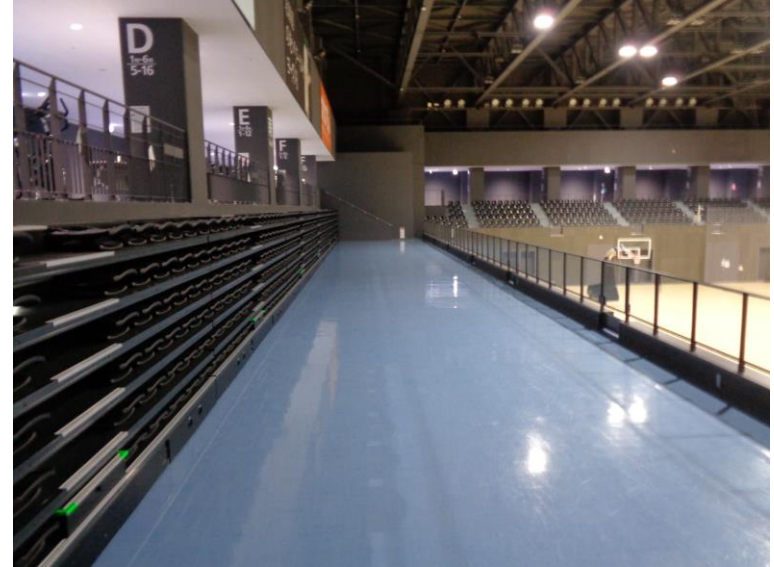
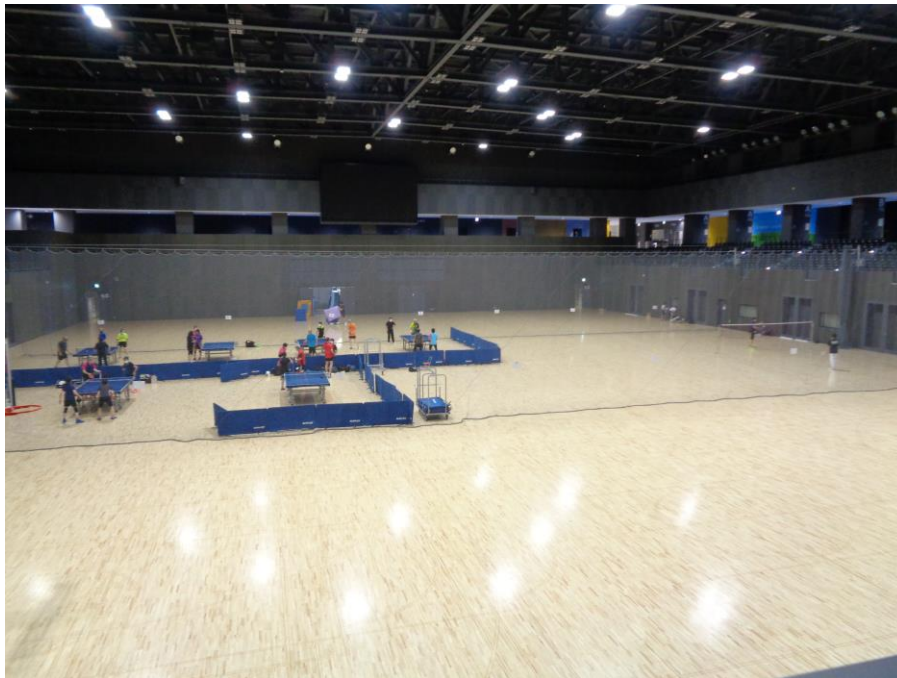
所在地	北海道帯広市
施設規模	敷地面積：27,131.63 m ² 、延床面積：14,848.33 m ²
開館年	令和2年2月体育館供用開始 令和3年10月：駐車場、広場等外構を含む全面供用開始
構造	RC造、一部S造
階数	地上3階
主な機能	メインアリーナ（バスケットボール3面）、サブアリーナ（バスケットボール1面、バレーボール2面）、多目的室、スタジオ、トレーニング室、会議室、研修室、幼児室・キッズコーナー等
事業手法	PFI手法（BTO方式）
特徴	- 十勝最大規模のスポーツ施設（道内3番目の規模） - 既存施設にはないサブアリーナを整備、トレーニング室の機能拡充 - ネーミングライツを採用（よつ葉アリーナ十勝）

① 視察を終えて

■ 帯広市総合体育館（よつ葉アリーナ十勝）

可動式観客席▶

▼メインアリーナ



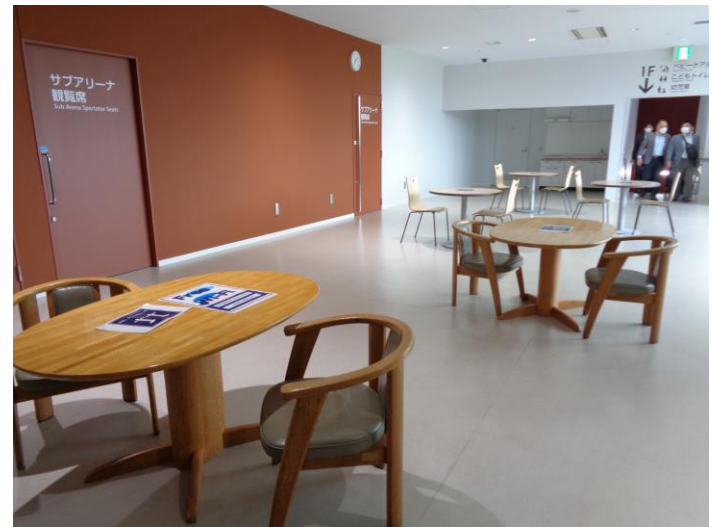
ウォームアップスペース▶

① 視察を終えて

■ 帯広市総合体育館（よつ葉アリーナ十勝）



サブアリーナ



ラウンジ



キッズコーナー



幼児室

① 視察を終えて

■ 帯広の森市民プール（スインピア）

所在地	北海道帯広市
施設規模	敷地面積：15,000㎡、延床面積：5,991.77㎡
開館年	平成8年9月
構造	SRC造
階数	地上2階地下1階
主な機能	50mプール（公認）、幼児・児童プール、観客席、走路、更衣室、採暖室、授乳室、会議室、休憩室、売店 等
維持管理体制	指定管理
特徴	50mプールは、公認プール8コース（25m競泳用として使用する場合は18コース） 50mプールは一部（10m×25m）可動床を採用（可動床部分：水深0.8m～2.5m、可動床部分以外：水深1.2m～1.4m）。 - 児童用プール：水深0.8m、幼児用プール：水深0.5m

① 視察を終えて

■ 帯広の森市民プール（スインピア）



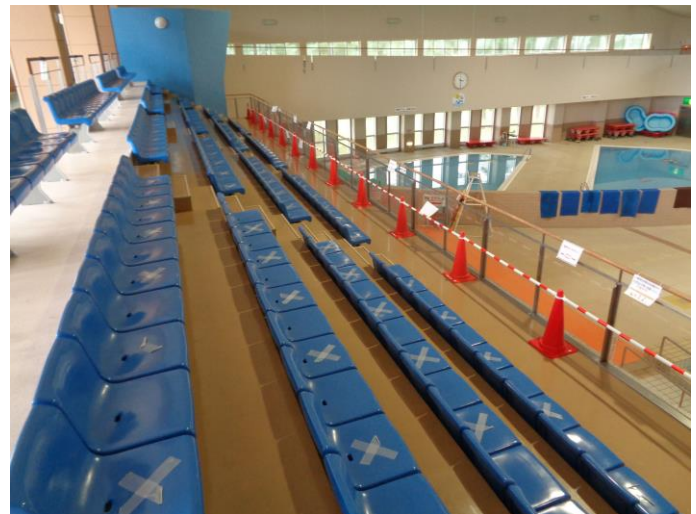
50mプール



可動床部分



児童・幼児用プール



観客席

② 先行事例紹介（プール併設体育館）

■北九州市浅生スポーツセンター

所在地	福岡県北九州市
施設規模	敷地面積約29,400㎡、延床面積約8,100㎡
開館年	平成28年9月
構造	RC造
階数	地上 3 階
主な機能	屋内：アリーナ（バスケットボール 2 面）、 室内温水プール（25m（公認）、幼児用プール、歩行者用プール）、 柔剣道場（各 2 面）、弓道場（近的12人立）、トレーニング室、 多目的室、会議室 屋外：庭球場（6面）、多目的広場、駐車場（約140台） 等
維持管理体制	指定管理（事業者：戸畑スポーツコミュニティ共同事業体）
特徴	- 北九州市戸畑区に点在していた、老朽化した 9 つのスポーツ施設を、戸畑区役所に隣接する学校跡地に集約し、北九州市のスポーツ拠点として整備 - 体育館は、避難所として活用することを想定 - 室内温水プールは、通常時1.1m、大会時1.35mに水深を調整

② 先行事例紹介（プール併設体育館）

■ 北九州市浅生スポーツセンター

浅生スポーツセンター施設イメージ図



② 先行事例紹介（プール併設体育館）

■ 北九州市浅生スポーツセンター



アリーナ



柔剣道場



トレーニング室



室内温水プール

② 先行事例紹介（プール併設体育館）

■ 墨田区総合体育館

所在地	東京都墨田区
施設規模	敷地面積14,336.39㎡、延床面積19,836.9㎡
開館年	平成22年4月
構造	S造
階数	地上 5 階
主な機能	メインアリーナ（バスケットボール 3 面）、サブアリーナ（バスケットボール 1 面、バレーボール 2 面）、武道場（4 面）、屋内プール（25m（可動床）、幼児用プール、ジャグジー）、多目的競技場、トレーニング室、テニスコート、カフェ・レストラン、自由提案施設（温浴施設） 等
事業手法	PFI手法（BTO方式）
特徴	• PFI事業として、施設の整備・維持管理・運営を民間事業者が実施。事業期間は平成19年 3 月～令和12年 3 月（約23年間：設計・建設約 3 年 4 か月、維持管理・運営20年） • 本施設は錦糸公園内に整備するため、公園の維持管理・運営に関連する業務については従来どおり区が実施 • 民間提案施設として、屋上フットサルコートや温浴施設が採用された。

② 先行事例紹介（プール併設体育館）

■ 墨田区総合体育館

5F	屋上（多目的広場・多目的競技場）	フットサル・アーチェリー・ゴルフ
4F	観客席／ランニングコース	ランニング
3F	メインアリーナ／サブアリーナ	バスケットボール・バレーボール・テニス・ ハンドボール・バドミントン・卓球 など
2F	総合受付／更衣室・温浴施設／売店／ カフェレストラン／会議室／武道場／ トレーニングルーム／スタジオ	剣道・柔道・空手・フィットネス・ダンス 系・体操系 など
1F	屋内プール／駐車場	スイミング など



メインアリーナ



室内プール



武道場



サブアリーナ

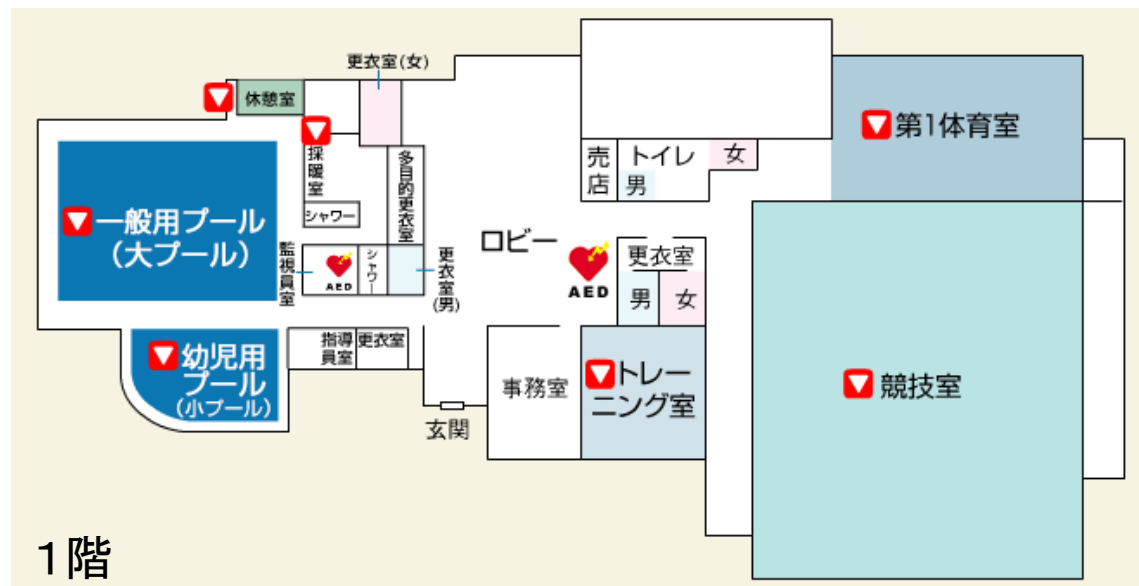
② 先行事例紹介（プール併設体育館）

■ 清田区体育館・温水プール

所在地	北海道札幌市
施設規模	敷地面積14,839.91㎡、延床面積6,999.42㎡
開館年	平成9年11月
構造	RC造・SRC造
階数	地上2階
主な機能	競技室（バスケットボール2面）、第1体育室（バドミントン3面）、第2体育室、格技室（1面）、トレーニング室、会議室、温水プール（25m、幼児用プール）
維持管理体制	指定管理
特徴	- 平成9年11月、豊平区・清田区の分区にあわせて開館した、札幌市初の、体育館と温水プールの複合施設である。 - 令和3年4月にリニューアルオープン。

② 先行事例紹介（プール併設体育館）

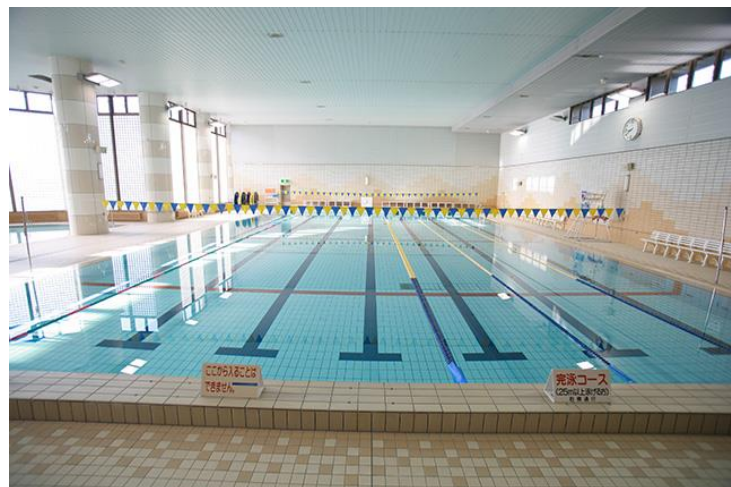
■ 清田区体育館・温水プール



競技室



格技室



一般用プール

